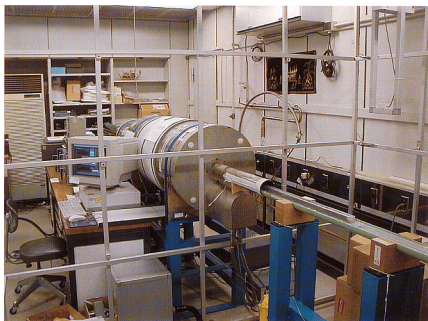


## 古地磁気・岩石磁気研究の進展

<山崎 俊副>



1. 白瀬丸船上における、堆積物コア半割試料からの古地磁気試料(約2cm角の立方体状)採取作業。



2. 地質調査所のバスルー型超伝導岩石磁力計システム。本装置により、従来から用いられている立方体状試料だけでなく、写真のような角柱状試料(形状からUチャネルと呼ばれる。長さ最大1.5m)やコアの半割試料の残留磁気を連続的に測定することができるようになった。磁気シールド(筒状)の中にSQUID素子とピックアップコイルからなる磁気センサー(3軸)が配置され、試料は中を通り抜ける構造になっている。手前の格子は、試料交換のスペースの磁場を小さくする目的で、地球磁場をキャンセルするためのコイル。

(関連：本文54ページ)